

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

598-471

事務事業名	橋南第二地区再開発事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	商業・市街地活性化課		包含する細々目	1	7	1	6	11	2	0
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり					1	7	1	6	11	5	4,700
施策	46 活気ある街づくりの推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		済み						
		事業期間	11	年度～	19	年度						
												中心市街地活性化計画 市街地再開発事業等補助金交付要綱
												関連計画 条例等

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	橋南第二地区再開発事業区域	橋南第二地区の床面積(m <sup>2</sup> )	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			18149	18149			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	居住人口を増やす 複合機能をもたせ、来街者を増やす	街区の居住人口(世帯数) (当初数値は、居住世帯数) (工事中に付、数値の把握なし)	18目標	29	最終目標	29	18
			18実績	29	19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標 達成年度	
		来街者数 (交通量調査による歩行者数) (本町1、銀座3、りんご並木でカウント)	18目標	3800	最終目標	3800	18
18実績			5182	19目標		↑	
23目標				23実績		最終目標 達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	橋南第二地区再開発組合が行う市街地再開発事業(工事)に対し補助を行う。 (計画概要) 施行区域及び面積: 飯田市通り町1丁目、本町1丁目、銀座3丁目地区内 約0.6ha 敷地面積:約4,145m <sup>2</sup> 延床面積:約18,116m <sup>2</sup> 主要用途:店舗、業務施設、公共施設、住宅、駐車場 構造・階数:鉄骨鉄筋コンクリート造 地上10階、地下1階	橋南第二地区再開発組合は再開発事業施設建築物の建設工事を継続し、夏までに完成予定。 市は、再開発組合に対して事業費(工事費等)の補助を行う。	工事進捗率(%)	100
	橋南第二地区再開発事業における事務(清算業務)	清算業務を行うために、県とヒアリングを行った回数(回)	3	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	88,976	
	県支出金	26,280	
	起債		
	その他		
一般財源	64,071	4,700	
事業費計(A)	179,327	4,700	
人件費	正規職員所要時間	18年度 4,000	19年度 500
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	14,304	1,788
	トータルコストA+B	193,631	6,488

特定財源内訳や補足事項	まちづくり交付金(市街地再開発補助 間接補助) (国1/3 県1/10 市7/30) *H17決算額その他は基金繰入金 (支弁人件費 H18:1,273 総額:10,951)
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	中心市街地に人や物が集まり活気がある状態を目指す	中心市街地に住んでいる人数	現状値	4883	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	4900
	中心市街地に住んでいる世帯数	中心市街地に住んでいる世帯数	現状値	2081	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	2060	

この事業を開始したきっかけ 市街地の定住人口の減少、少子高齢化、郊外の大規模店舗出店等による市街地での商業の衰退等に歯止めをかけ活性化を図るため、地権者や商店主、住民が中心になり再開発事業に着手した。	事業を取り巻く状況の変化 橋南第一地区再開発ビルの完成に加え、TMOによる空き店舗対策事業等により、当該地区の通行量や賑わいが増してきている。	事業に対する市民や議会の意見 商業・業務・公共の文化施設等の複合的な機能の配置により来街者の増加が見られる。
---	--	---

### 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 橋南第二地区は第一地区と共に中心市街地の中核であり、住宅・事業所・店舗数の増加で定住人口や交流人口が増加することにより、中心市街地の活性化に繋がる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 開発が早期に実現されることにより、成果が確実に得られる。さらに、ソフト事業等を組み合わせることにより、成果を向上させることが可能と考える。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 市が取り組む再開発事業の対象地区としては、見直す必要はない。		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 組合のみでの再開発事業の継続は困難であることから、市が支援等を中止すれば、中心市街地の活性化が実現できなくなる。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 中心市街地に複合機能を持った施設等を入れ、居住人口並びに来街者を増やすことは市街地再生の基幹であり、見直しの必要はない。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)。 (評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 地区の特性を生かした事業展開となるため統合は不可能。ただし、互いに連携することで相乗効果が期待できる。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 中心市街地は都市機能が集積し、文化・経済・歴史的な賑わいの中心である。中心市街地が衰退し、まちの求心力がなくなることは、飯伊地域全体の活力を衰退させてしまうため、市が関与し活性化させる必要がある。		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 事業費を削減することは、現実計画での事業展開ができないこととなり成果が下がることとなる。また、多様な補助金導入や制度改正を働きかけることにより、負担削減効果を得ている。また、市が支援することに価値があり成功要因となっているため、現体制の中で削減することはできない。
	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 市街地再開発法に基づく補助であり、その水準は妥当である。	公平性 評価	

### 【Plan】改革改善

<b>今後の事業の方向性</b> <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 18 具体化	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

#### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

#### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	